

絵本作品

ここからはバートンの
主な絵本作品の中を
ご紹介します。

この絵本をはじめて手にしたのは、大学を卒業して間もないころでした。くり返し描かれているのどかな田園風景に、田舎育ちの私の心は強くひかれました。同時に、時代が移り変わっても変わらずにそこにあるものの大切さに気づかされ、忘れられない1冊となりました。

そこで、1980年に子どもの本専門店を始めることになったとき、迷うことなく店名は「ちいさいおうち」に決めました。それから地域の人たちに支えられ、37年たった今も続いており、これはバートンのこの絵本が守護神となっているからだ感謝しています。また、当店が30周年を迎えた年に、中島京子さんが『小さいおうち』で直木賞を受賞されたことから、この絵本との不思議な縁をさらに強く感じました。

そして、今年の夏、バートンの展示会に足を運び、改めて、彼女の偉大さと絵本づくりにかける熱い思いにふれることができました。

ありがとう！ バートンさん。

長野県／ちいさいおうち書店
越前一夫さん

『ちいさいおうち』

訳／いしいももこ
大型版 1,600円
(岩波書店 1965)

田舎の静かなところに建てられたちいさいおうちは、四季のうつろいの中で幸せに暮らしていました。けれど開発の波が押し寄せ、まわりには大きなビルが建ってしまいました。

『ちいさいおうち』
ありがとう！

緑豊かな田舎町にあるちいさいおうち……そのおうち自身が主人公のおはなしです。時代の流れはまわりに道路や鉄道を敷き、大きな建物を建てました。この喧騒の町に残されてしまったちいさいおうちはどうなってしまうのか……。私の祖母の家が再開発のため取り壊され、大きな道路や高層マンションに変わっていった記憶が、この絵本を読んだときよみがえりました。物語と同じ結末であったならともう今でも思います。

東京都／オリオン書房むさし村山店 谷口香織さん

22年前に、子どもの本専門店を始めました。そのとき、店名を迷わず「ちいさいおうち」と決めたのは、渡辺茂男さんの著書『絵本の与え方』（日本エディタースクール出版部）の序文を思い出したからです。

それは、当時の子どもたちと絵本の『ちいさいおうち』を重ね合わせ、多くの大人が、子どもたちからその成長に必要な環境を奪っているのではないか。子どもの成長に必要な生存の現実感、自然の恵みの無限に広がる空間と時間の中で子どもの感性が感じとっていくもの。だから、子どもに本を読んでやりたい、読ませたいと思う大人は、まず子どもたちに、ちいさいおうちがそうされたように、そんな空間と時間を返してやるのが先決だ。自由に動き回る空間は無理だとしても、空間の広がりを感じる気持ちのゆとりを与えてやることをすべきだと、書かれていたのです。

ですから、子どもたちに本を手渡すだけでなく、そんな気持ちのゆとりも与えられる場所になりたいと願い、名づけました。

愛知県／子どもの本専門店ちいさいおうち
鑑廣みどりさん



プログラム

0・1・2歳

どこで／子育て教室 所要時間／25分
テーマ／寒さなんか平気！

このプログラムのポイント

寒いからこそ楽しくてワクワクすることが多い冬。歌や参加型の絵本で、心や体があたたまるのを感じてください。

① 遊び歌

「とんとんとんとんひげじいさん」
『あそびうた大全集200』より

編著／細田淳子
1,800円(永岡書店)

リズムに乗って楽しく歌い、手遊びでなごやかな雰囲気にならう。



② 『だーれのおしり?』

作／よねづゆうすけ
900円(講談社)

子どもたちはおしりが大好き。おしりの形や色、しっぽを見せて「だーれのおしり?」と聞き、間を置いてページを上をめくってください。



③ 『ウクライナ民話 てぶくろ』

絵／エウゲーニー・M・ラチョフ 訳／うちだりさこ
1,000円(福音館書店)

雪の降る森へ行ってみましょう。手袋が落ちています。そこへ動物たちが次々とやってきます。動物たちの繰り返しの会話と絵の変化を楽しみましょう。



④ 『ゆきみちさんぽ』

作／えがしらみちこ
1,200円(講談社)

みんなも雪の中を散歩しましょう。冬ならではの音がいろいろ聞こえてきます。聞きなれない音をあてこして冬を満喫しましょう。



⑤ 『おでんのゆ』

作・絵／真珠まりこ
900円(ひさかたチャイルド)

寒い日はあたたかいものが食べたいね。お鍋のお風呂に大根やちくわが入っていきます。最後はみんなで食べるまねっこで遊びましょう。



⑥ 『わらべうたえほん あぶくたった』

構成・絵／さいとうしのぶ
900円(ひさかたチャイルド)

ネズミの家族があずきを煮ていますよ。一緒にわらべ歌を歌い、食べてみましょう。その繰り返しを楽しんでください。



⑦ 『まどから おくりもの』

作／五味太郎
1,000円(偕成社)

冬はやっぱりクリスマス。仕掛けの窓から中の様子を見て誰がいるのか一緒に想像し、子どもの反応に寄り添ってページを進めます。



(大谷美恵子)

対象別おはなし会のプログラムです。
ここで紹介する絵本や紙芝居は、
ご家庭での読みきかせにもおすすめです。
冬のブックガイドとしても活用してください。

行事絵本・季節の絵本

冬

『しもばしら』

写真／細島雅代 文／伊地知英信
1,500円(岩崎書店)

しもばしらは、土の中からしみ出た水が凍って下から上へのびていきます。どんな場所に、どんなしもばしらができるのでしょうか？



節分

『鬼といりまめ』

文／谷 真介 絵／赤坂三好
1,068円(佼成出版社)

節分は季節の変わり目です。「鬼は外! 福は内!」と豆まきをしますが、どうしてなのか、なぜ豆なのか知っていますか。伊豆や東京に伝わる由来話です。



冬

紙芝居『かめさんのふゆごもり』

作／今井誉次郎 画／竹川功三郎
1,600円(童心社)

寒い冬、カメはどうやって過ごすのでしょうか？ひろちゃんの家で冬ごもりをするようになったかめさんのおはなしです。



クリスマス

紙芝居『なぜ、クリスマスツリーをかざるの?』

脚本／岩倉千春 絵／アリマジュンコ
1,900円(童心社)

クリスマスの考え方や習慣は、実は世界各地で違いがあります。おぼけや魔女がやってきたら、どうしますか？

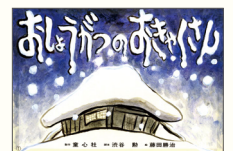


お正月

紙芝居『おしょうがつのおきやくさん』

脚本／渋谷 勲 絵／藤田勝治
1,900円(童心社)

雪の降る夜にやってきた7人の旅人を、貧乏なじさまとばさまはあたたかくもてなしました。大みそかの晩、その旅人たちが、またやってきました。



(安富ゆかり)



絵本作家さん こんにちは！

この人にあれもこれも



『ごぎげんなすてご』
1,300円 (徳間書店)

祝！
デビュー
30周年

いとうひろしさん

まだまだ描きたいものがいっぱいある

今年7月から3カ月間にわたって開かれた「いとうひろし展
みつけよう、わくわくのタネ」には、いつも多くの親子の姿がありました。

子どもも大人も魅了する、いとうさんの子どもの本への思いとは。

撮影／石川正勝

PROFILE

いとう・ひろし

1957年東京生まれ。1987年『みんながおしゃべりはじめるぞ』でデビュー。ほのぼのとしながらも含蓄の深い絵本や児童読み物で活躍中。主な作品に『ルラルさんのにわ』（絵本にっぽん賞受賞）、『だいじょうぶ だいじょうぶ』（講談社出版文化賞・絵本賞）、『くもくん』（日本絵本賞読者賞）など。

デビューして30年、
節目の感慨はまったくない

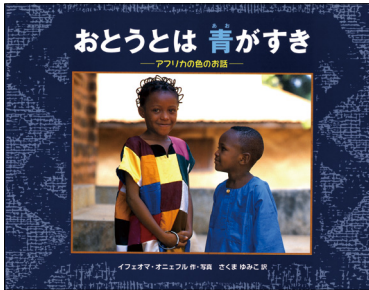
ほかが住む練馬区で、30周年記念の展覧会を開いていただきました。そのために、これまでいろいろ描いてきたものを引っぱり出していますから、「ああ、たくさん描いたなあ」とは思いますが、でもこうした機会がなければ、きっとそのままスルーしていたでしょうね。

いつでも次にやることを精いっぱい楽しんできたので、30年過ぎたという実感がありません。20年目に出したものと、今出すものと、自分の中ではなんら変わりがないんです。

この本はずっと前に出したという認識はありますが、どの本も、今のものとして自分の中にあります。

でも、いったん本を出したら、それはほかのものというより、読む人のものという意識が強い。もともと子どもの本というのは長く読み継がれるものという認識で始めているので、よく「何年も売れ続けて、すごいことだよ」と言われるけれど、それはすべて、最初からそのつもりでやっているわけです。

もちろん、30年のうちには、うまくいかなかったものもあるし、消えていってしまうものもあるのは悲しいけれど、結果ですから。それはつきり手としては受け入れなくてはいけないことですよね。



『おとうとは 青がすき』
作・写真／イフェオマ・オニエフル
訳／さくまゆみこ
品切れ (偕成社)
ナイジェリアに住むチディとネカのきょうだい。弟のチディは青色が好き。でも、そのほかにもいろいろな色があることを自然の中にあるもので教えてあげよう。

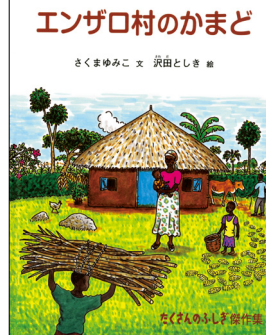
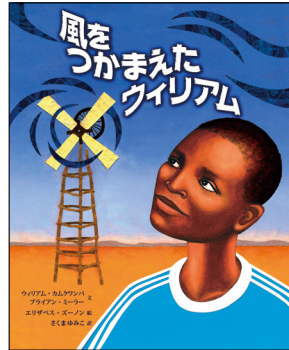


アフリカの暮らしや文化を知ろう



『風をつかまえたウィリアム』

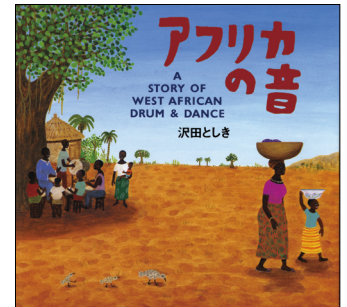
文／ウィリアム・カムクワンバ、
ブライアン・ミーラー
絵／エリザベス・ズーノン
訳／さくまゆみこ
1,400円 (さ・え・ら書房)
家が貧しくて学校に通えなくなった14歳のウィリアムは、近くの図書館で科学の本に出合います。英文を少しずつ読み進め、身近にあるもので風車をつくり電気を起こしました。



『エンザロ村のかまど』

文／さくまゆみこ 絵／沢田としき
1,300円 (福音館書店)

焚口1つで鍋が3つかけられるかまどができてから、飛躍的に料理の効率がよくなったばかりでなく、煮沸して衛生的な水を飲めるようになりました。それはひとりの日本人女性のおかげでした。



『アフリカの音』

作／沢田としき
1,500円 (講談社)

木をくりぬいて作られるタイコにはヤギ1頭分の皮が張られています。タイコの音は乾いた風に乗り、言葉のかわりに遠くまで運ばれていきます。それは命のつながりに感謝するアフリカの音。



『ジャクソン ケニアの11歳 学校へいきたい! 世界の果てにはこんな通学路が!』

写真／ウィンズ、E・ギオネ
1,400円 (六耀社)
ケニアに住むジャクソンは11歳。毎朝、妹と一緒に15km離れた学校まで2時間かけて通います。途中には野生のゾウや岩場など危険がいっぱいですが、ふたりは希望を胸に登校します。



『南アフリカ共和国 世界のともだち14』

写真・文／船尾修
1,800円 (偕成社)
ヨハネスブルグ近郊に住むシフィウエは12歳。サッカーが大好きな少年です。近代的な生活を送る家族ですが、家系であるズルー族の伝統も大切にしています。



『どんな国? どんな味? 世界のお菓子③ 中東・アフリカのお菓子』

作／服部幸應、服部津貴子
2,800円 (岩崎書店)
エジプトのマームールというクッキーや、チュニアの焼き菓子、モロッコのアーモンド・ミルクなど、その国を代表するお菓子や飲み物の作り方が紹介されています。



新刊



『サファリ』

作・絵／松岡たつひで 1,400円 (金の星社)
ケニアでサファリの冒険に出発です。インパラを捕まえたヒョウやジャッカル、ハシビロコウ、ナイルワニなど、昆虫も含め124種類もの生きものが描かれています。

著作権保護コンテンツ



アメリカ

『おばけのジョージ おおてがら』

作・絵／ロバート・ブライト
訳／なかがわちひろ 1,200円 (徳間書店)

ジョージは、恥ずかしがりやの小さなおばけ。ホイットカーさんの家の屋根裏に住んでいます。ある夜、ホイットカーさんたちの留守の間に、どろぼうがやってきました。

Level 1

小学校
1・2年生～



ないとうふみこ

「そんなアホな！」と
笑いながら読むうちに、
心がほっこりする
おはなし。

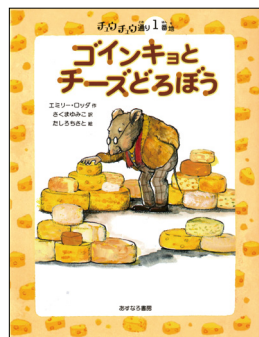


アメリカ

『ぺちゃんこスタンレー』

文／ジェフ・ブラウン
絵／トミー・ウンゲラー
訳／さくまゆみこ
950円 (あすなろ書房)

ある日、寝ている間に、ぺちゃんこになってしまったスタンレー。ぺちゃんこの体で、すき間に入ったり、封筒に入り郵便で旅をしたり。さて、もとに戻るのでしょうか。



オーストラリア

『チュウチュウ通り1番地 ゴインキョとチーズどろぼう』

作／エミリー・ロッド
訳／さくまゆみこ 絵／たしろちさと
900円 (あすなろ書房)

ここはハツカネズミの住むチュウチュウ通り。1番地のゴインキョさんの家には宝物がいっぱい。それを聞きつけて、どろぼうがやってきました。全10巻のシリーズ。



アメリカ

『ハリーと うたう おとなりさん』

文／ジーン・ジオン
絵／マーガレット・ブロイ・グレアム
訳／小宮 由
1,400円 (大日本図書)

イヌのハリーは、お隣さんの高くて大きい歌声にうんざりしていました。どうにか止めてほしくて、友だちと吠えたり、ウシや音楽隊を連れてきたりしますが、なかなかうまくいきません。



アメリカ

『たんけんクラブ シークレット・スリー』

文／ミルドレッド・マイリック
絵／アーノルド・ローベール
訳／小宮 由
1,400円 (大日本図書)

ビリーとマークは砂浜でピンを拾いました。中に入っていた暗号で書かれた手紙を解読してみると、探検クラブをつくろうという誘いでした。ふたりは暗号で返事を書きます。



武富博子

読んでもらう人も、
読んであげる人も、
自分で読む人も、きっと
ゆつたりと幸せな気持ち
になれるはず！



イギリス

『おはようスーちゃん』

作・絵／ジョン・G・ロビンソン
訳／中川李枝子
1,200円 (アリス館)

小さな女の子スーちゃんは、パパとお留守番したり、おつかいに行ったり、毎日楽しく過ごしています。ママのお誕生日には、とてもすてきなものを作ってあげました。



アメリカ

『ハロウィーンのまじょティリー うちゅうへいく』

作／ドン・フリーマン 訳／なかがわちひろ
1,300円 (BL出版)

魔女のティリーは宇宙人を驚かそうと、宇宙船ウチウボウキ号で、ネコのキットと宇宙へと飛び立ちます。でも、宇宙人は見つからないまま、燃料切れになってしまい、ある星に着陸します。



フィンランド

『木いちごの王さま』

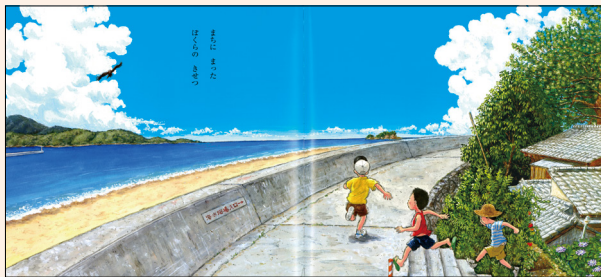
原作／サカリアス・トベリウス
文／きしだえりこ 絵／やまわきゆりこ
1,500円 (集英社)

テッサとアイナは木いちごを摘みに森に行きますが、迷子になってしまいます。そこで、不思議なことが起こりました。パンが食べたいと思ったら、パンを手に入っていたのです。

『夏がきた』

作／羽尻利門
1,300円(あすなろ書房)

風もお日さまも昨日と違う。待ちに待ったぼくらの季節がやってきました。少年の一日を通して、懐かしい日本の夏の風物がいきいきと描かれています。セミの声、風鈴や夕立……。実際に夏の音が聞こえてくるようです。



作者から

夏好きの私が、「夏がきた」と感じる瞬間をぎゅっと詰め込んだ作品です。登場人物の関係性は、テキストでは語っていません。ストーリー展開も、絵で表現しています。ですから、読者の方が、絵をじっくり見ながら自由に想像を膨らげていただければうれしいです。そして、表紙は里山を描いた大パノラマですが……。あれ？ よく見ると小さな5つの平仮名が……。さて、その答えはぜひ、本作をお手にとって見つけてみてくださいね！

(羽尻利門さん)

『サイモンは、ねこである。』

作／ガリア・バーンスタイン
訳／なかがわちひろ
1,400円(あすなろ書房)

ネコのサイモンが言いました。「ほくたち、似てますね」。言われたライオンやトラたちは大笑い。違いをあげては「似てるところなんかあるか?」。でもよく見てみましょう。結果はどうなった?



『おふねに のって』

作／スギヤマカナヲ
850円(赤ちゃんとママ社)

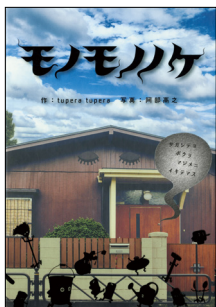
まるちゃんが、お船に乗ってお出かけしたら、さんかくちゃん、しかくちゃん、ほそながちゃんが見つけて言いました「のせて」。みんなを乗せて、お船はぎゅうぎゅう、ゆーらゆーらと進みます。



『モノモノケ』

作／tupera tupera
写真／阿部高之
1,600円(アリエスブックス)

どこにでもありそうな一軒家の玄関から家の中に入ってみましょう。洗面所、道具箱、子ども部屋、食器棚にも。あちらこちらに潜むモノノケをジャバラに開く写真で見えていきます。裏面では、モノノケを個別にご紹介!



『うるさいアパート』

文／マック・バーネット
絵／ブライアン・ビッグス
訳／椎名かおる
1,300円(あすなろ書房)

10階建てのアパートが舞台です。小さな男の子が困っています。夜中なのに何やら騒がしくて眠れません。らららー、ぱつぷぷぷ……、上の階から聞こえる音は、何の音? いったい何をしていますのでしょうか。



もう
読んだ?

新刊

100!!

2017年6～8月に発売された新刊絵本の中から、読みきかせにもおすすめの100冊を選びました。子どもたちとすてきな時間を過ごしてください。

※出版社五十音順

🍼 マークは乳幼児から、🎵 は中・高校生も楽しめる本です。

定期購読者限定プレゼント🎁

新刊絵本プレゼントの詳細は、このページの下欄をご覧ください。

『うちのこ こんなこ』

作／やまもとまもる
650円(赤ちゃんとママ社)



写真を撮ろうとすると変顔をしたり、「ぎんぴらごほう」は「ちんぴらごほう」になるのに、好きなものの名前は噛まずに言えてしまいます。子どもって、全力でいろんなことをやったり、言ったりして驚かせてくれます。